

# 小学校英語に関する調査

---

小学校学習指導要領全面実施前後での  
児童の英語力及び意識の変容

ベネッセ教育総合研究所

## 調査概要

2017年に小学校学習指導要領が告示され2年間の移行期間を経て、2020年度から小学校3・4年で外国語活動、5・6年では外国語科が実施されています。この間に児童の英語力及び意識がどのように変容したのかを探るため、移行期（年間50単位時間）の小学6年生（2019年度）と全面実施後（年間70単位時間）の小学6年生（2021年度）の英語力と意識について調査を実施しました。

### ■ 調査テーマ

移行期（年間50単位時間）と全面実施後（年間70単位時間）の小学6年生の英語力及び意識の実態

### ■ 調査内容

#### ● 英語力調査

英語力調査として、スコア型4技能テスト＜GTEC Junior2＞を実施

##### 【GTEC Junior2の概要】

- ・測定技能：「聞く」「読む」「話す」「書く」
- ・測定方法：専用タブレット
- ・実施時間：約90分
- ・4技能上限スコア：480点
- ・各技能上限スコア：120点
- ・出題範囲：小学3年\*～6年の範囲の語彙 ※現行学習指導要領移行措置対象の範囲のみ。
- ・CAN-DO statementsについては19～20ページ参照。

#### ● 児童アンケート調査

児童アンケート調査は、GTEC Junior2に含まれるアンケートを使用。

##### 【アンケート項目】

授業の理解度/授業の楽しい・楽しくない/英語の好き・嫌い/英語の授業や活動でもっとやってみたいこと/授業を通して思うようになったこと/学校外での英語学習（もっとも長い期間取り組んでいるもの/期間）/つけたい英語力

### ■ 調査対象と調査時期

#### ● 調査対象

全国の公立小学校の6年生

【2019年度調査】 ご協力いただいた学校67校、小学6年生 4,443名

【2021年度調査】 ご協力いただいた学校62校、小学6年生 3,832名

##### ※調査対象校について

全国の小学校の中から地域のばらつきを考慮したうえで有意抽出した公立小学校（2019年度の外国語活動実施時数が年間50単位時間を基本とする）へ協力依頼。

##### ※分析対象について

分析は、2019年度・2021年度両調査に参加した61校の小学6年生に限定して算出。

2019年度：4,077名、2021年度：3,770名

#### ● 調査時期

【2019年度調査】 2020年1月

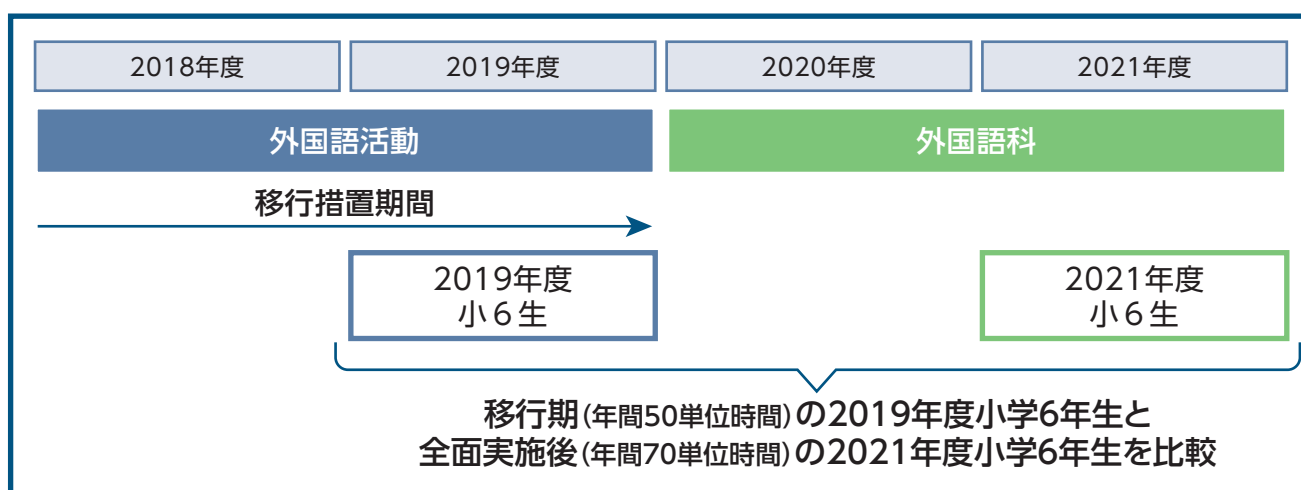
【2021年度調査】 2021年10月

## ■学校調査・教育委員会調査

- ・本研究では、調査協力校の「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」の取り組み状況を捉えるために、調査協力校を対象に学校調査、調査協力校が属する地域の教育委員会を対象に教育委員会調査を実施している。
- ・実施時期：2019年度、2020年度、2021年度の各年度末（2月～）に実施。
- ・学校調査：第6学年学年主任に回答を依頼。  
教育委員会調査：「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」を担当する指導主事に回答を依頼。
- ・2021年度の学校調査のみ、第6学年とは別に第5学年にも調査を実施している。

	学校調査	教育委員会調査
2019年度	54校	12件
2020年度	61校	16件
2021年度	59校	16件

## 🔍 本研究の枠組み



### <データに関する留意点>

本報告書で使用している百分率（％）は、各項目の算出方法に沿って出した値の小数点第2位を四捨五入して表示している。その結果、数値の和が100にならない場合がある。

## 📖 CONTENTS

調査概要・本研究の枠組み・・・・・・・・・・2～3	資料編1-1 学校調査の結果
〔英語力調査結果〕	指導者・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
1 英語力① 全体傾向・・・・・・・・・・4	教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
英語力② 聞く力・話す力・・・・・・・・5	評価・CAN-DO・・・・・・・・・・15
英語力③ 読む力・書く力・・・・・・・・6	校内研修・授業で行っていること・・16
〔児童アンケート結果〕	学校の課題・・・・・・・・・・・・・・・・17
2 意識①・・・・・・・・・・・・・・・・・・7	資料編1-2 教育委員会調査の結果
意識②・・・・・・・・・・・・・・・・・・8	教育委員会の課題・・・・・・・・・・18
意識③・・・・・・・・・・・・・・・・・・9	資料編2
学校外での英語学習・・・・・・・・・・10	GTEC Juniorの
3 本調査結果から分かること・・・・・・・・11～12	スコア・グレードについて・・・・・・・・19～20

# 〔英語力調査結果〕

## ① 英語力① 全体傾向

### 2019年度小6生と比較すると2021年度小6生の平均スコアが上昇。

2021年度小6生の4技能合計のトータルスコア（平均）は、2019年度小6生の349.2点から36.4点上昇し385.6点になり、トータルスコアが位置するグレードも3から4に上がっている。技能別の変化をみると、「読む力」「話す力」「書く力」がそれぞれグレード3からグレード4に、もともと他の技能に比べて高くグレード4だった「聞く力」については、平均スコアが上がったがグレードに変化はなかった。また、英語力の分布（トータル）をみてもグレード4が増えていることがわかる。（スコア／グレードについては19～20ページ参照。）

表1 英語力スコア・グレード（全体平均）

年度	人数	トータル		聞く力		読む力		話す力		書く力	
		スコア	グレード	スコア	グレード	スコア	グレード	スコア	グレード	スコア	グレード
2019	4,077	349.2	3	95.8	4	82.1	3	84.9	3	86.4	3
2021	3,770	385.6	4	100.3	4	90.4	4	96.0	4	98.9	4

\* 4技能上限スコア：480点満点、各技能上限スコア：120点満点

図1 英語力の分布（トータル）

		学年		2019年度 小6生			2021年度 小6生			
		技能		Total			Total			
		受検者数		4,077			3,770			
		平均		349.2			385.6			
グレード	推奨スコア ガイドライン	スコア			人数	%	人数	%		
G4 365~480	Junior Intermediate Level なじみのある英語を 使えるようになるレベル	480	461	480	252		6.2	717		19.0
		460	441	460	275		6.7	363		9.6
		440	421	440	272		6.7	387		10.3
		420	401	420	289		7.1	351		9.3
		400	381	400	323		7.9	354		9.4
		380	361	380	384		9.4	339		9.0
G3 285~364	Junior Primary Level 決まった表現を自分なりに 使い始めるレベル	360	341	360	416		10.2	336		8.9
		340	321	340	429		10.5	203		5.4
		320	301	320	409		10.0	200		5.3
		300	281	300	312		7.7	152		4.0
G2 205~284	Junior Introductory Level 知っている表現を理解して 行動できるレベル	280	261	280	275		6.7	109		2.9
		260	241	260	148		3.6	94		2.5
		240	221	240	118		2.9	50		1.3
		220	201	220	83		2.0	45		1.2
G1 ~204	Junior Preparatory Level 英語の基本的な 決まり文句をいくつか 理解できるレベル	200	181	200	44		1.1	16		0.4
		~180	0	180	48		1.2	54		1.4

# 1 英語力② 聞く力・話す力

「聞く力」は変わらずグレード4が多い。「話す力」はグレード4が大きく増加。

「聞く力」「話す力」について詳細をみると、「聞く力」は、2回の調査ともグレード4がもっとも多く、2019年度は6割、2021年度は7割だった。グレード2以下も1割未満と4技能の中でもっとも少ない。また、「話す力」は、2019年度はグレード3、グレード4が共に4割台だったが、2021年度にはグレード4が7割弱に増え、4技能の中でもグレード4の増加がもっとも大きかった。

図2 英語力の分布（聞く力）

	学年		2019年度 小6生		2021年度 小6生		
	技能		聞く力		聞く力		
	受検者数		4,077		3,770		
	平均		95.8		100.3		
グレード	スコア		人数	%	人数	%	
G4 90~120	120	111	120	1,072	26.3	1,375	36.5
	110	101	110	620	15.2	641	17.0
	100	91	100	768	18.8	672	17.8
G3 70~89	90	81	90	758	18.6	541	14.4
	80	71	80	511	12.5	300	8.0
G2 55~69	70	61	70	249	6.1	154	4.1
	60	51	60	79	1.9	58	1.5
G1 ~54	50	41	50	14	0.3	15	0.4
	40	31	40	3	0.1	6	0.2
	30	21	30	1	0.0	2	0.1
	20	11	20	0	0.0	3	0.1
	10	1	10	0	0.0	0	0.0
	0	0	-	2	0.0	3	0.1

**【2019年度 聞く力】**

G4 (90~120) : 62.0%

G3 (70~89) : 30.4%

G2 (55~69) : 6.6%

G1 (~54) : 1.0%

**【2021年度 聞く力】**

G4 (90~120) : 72.8%

G3 (70~89) : 21.2%

G2 (55~69) : 4.8%

G1 (~54) : 1.1%

図3 英語力の分布（話す力）

	学年		2019年度 小6生		2021年度 小6生		
	技能		話す力		話す力		
	受検者数		4,077		3,770		
	平均		84.9		96.0		
グレード	スコア		人数	%	人数	%	
G4 90~120	120	111	120	305	7.5	1,384	36.7
	110	101	110	461	11.3	568	15.1
	100	91	100	801	19.6	549	14.6
G3 70~89	90	81	90	986	24.2	440	11.7
	80	71	80	806	19.8	317	8.4
G2 50~69	70	61	70	420	10.3	188	5.0
	60	51	60	148	3.6	119	3.2
	50	41	50	60	1.5	69	1.8
G1 ~49	40	31	40	26	0.6	29	0.8
	30	21	30	11	0.3	38	1.0
	20	11	20	0	0.0	14	0.4
	10	1	10	0	0.0	10	0.3
	0	0	-	53	1.3	45	1.2

**【2019年度 話す力】**

G4 (90~120) : 40.9%

G3 (70~89) : 42.8%

G2 (50~69) : 12.7%

G1 (~49) : 3.6%

**【2021年度 話す力】**

G4 (90~120) : 67.5%

G3 (70~89) : 19.4%

G2 (50~69) : 7.8%

G1 (~49) : 5.3%

# 1 英語力③ 読む力・書く力

「読む力」「書く力」は、2019年度は共に6割前後がグレード3以下だったが2021年度は半数以上がグレード4に。

「読む力」は、2019年度、2021年度共に4技能の中でグレード4がもっとも少ないが、2021年度にはグレード4が増加し半数以上となった。「書く力」は、2019年度は4割がグレード4だったが、2021年度にはグレード4が6割以上となり、「話す力」に次いでグレード4が増加した。

図4 英語力の分布（読む力）

学年	2019年度 小6生			2021年度 小6生			
	読む力			読む力			
	受検者数			3,770			
	平均			90.4			
グレード	スコア			人数	%	人数	%
G4 90~120	120	111	120	793	19.5	1,115	29.6
	110	101	110	284	7.0	370	9.8
	100	91	100	382	9.4	411	10.9
G3 70~89	90	81	90	534	13.1	512	13.6
	80	71	80	611	15.0	530	14.1
G2 50~69	70	61	70	633	15.5	383	10.2
	60	51	60	463	11.4	223	5.9
G1 ~49	50	41	50	229	5.6	109	2.9
	40	31	40	97	2.4	66	1.8
	30	21	30	39	1.0	28	0.7
	20	11	20	8	0.2	13	0.3
	10	1	10	2	0.0	3	0.1
	0	0	-	2	0.0	7	0.2

**【2019年度 読む力】**

G4 (90~120) : 37.0%

G3 (70~89) : 28.4%

G2 (50~69) : 26.0%

G1 (~49) : 8.6%

**【2021年度 読む力】**

G4 (90~120) : 52.2%

G3 (70~89) : 26.7%

G2 (50~69) : 15.4%

G1 (~49) : 5.7%

図5 英語力の分布（書く力）

学年	2019年度 小6生			2021年度 小6生			
	書く力			書く力			
	受検者数			4,077			
	平均			86.4			
グレード	スコア			人数	%	人数	%
G4 95~120	120	111	120	659	16.2	1,379	36.6
	110	101	110	528	13.0	641	17.0
	100	91	100	626	15.4	629	16.7
G3 75~94	90	81	90	714	17.5	483	12.8
	80	71	80	589	14.4	323	8.6
G2 50~74	70	61	70	418	10.3	149	4.0
	60	51	60	259	6.4	73	1.9
G1 ~49	50	41	50	156	3.8	48	1.3
	40	31	40	72	1.8	10	0.3
	30	21	30	28	0.7	6	0.2
	20	11	20	8	0.2	0	0.0
	10	1	10	9	0.2	0	0.0
	0	0	-	11	0.3	29	0.8

**【2019年度 書く力】**

G4 (95~120) : 40.4%

G3 (75~94) : 30.8%

G2 (50~74) : 22.2%

G1 (~49) : 6.6%

**【2021年度 書く力】**

G4 (95~120) : 63.8%

G3 (75~94) : 28.2%

G2 (50~74) : 9.0%

G1 (~49) : 2.4%

## 〔児童アンケート結果〕

### ② 意識①

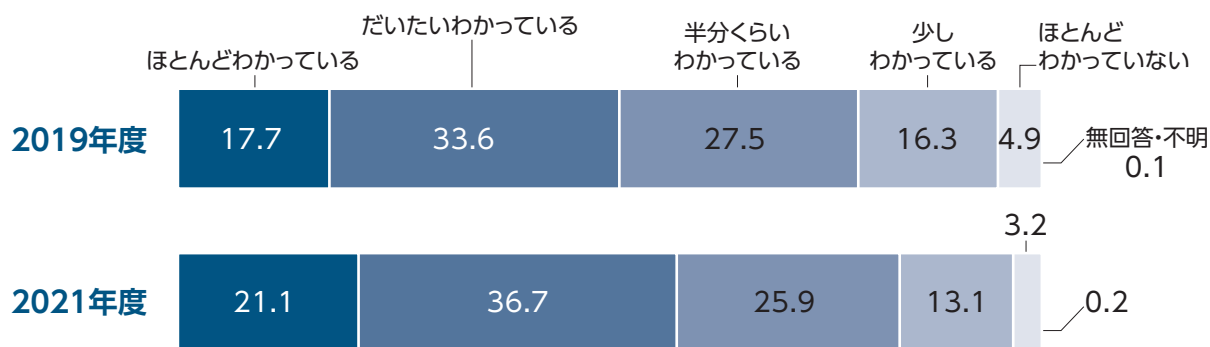
授業を「ほとんど+だいたいわかっている」が、2019年度→2021年度で6.5ポイント増加。

授業の理解度について、「ほとんど+だいたいわかっている」という回答が2019年度→2021年度に6.5ポイント増加した。一方で、英語の授業や活動を「楽しい（とても+まあ）」と肯定している比率は8割台、また、英語を「好き（とても+まあ）」という回答は6割台と、2019年度、2021年度で変化はほとんどみられなかった。

Q：英語の授業や活動の内容をどのくらい理解していますか？

図6 英語の授業や活動の理解度

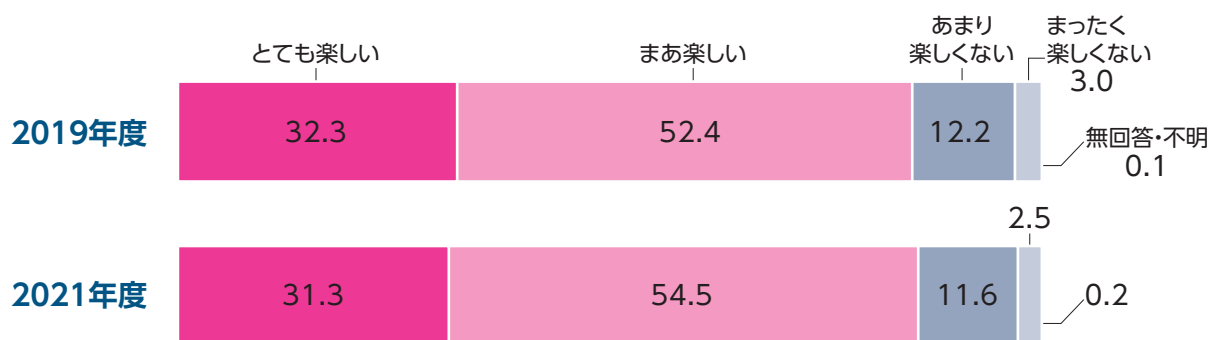
(%)



Q：英語の授業や活動の時間は楽しいですか？

図7 英語の授業や活動の時間の楽しい・楽しくない

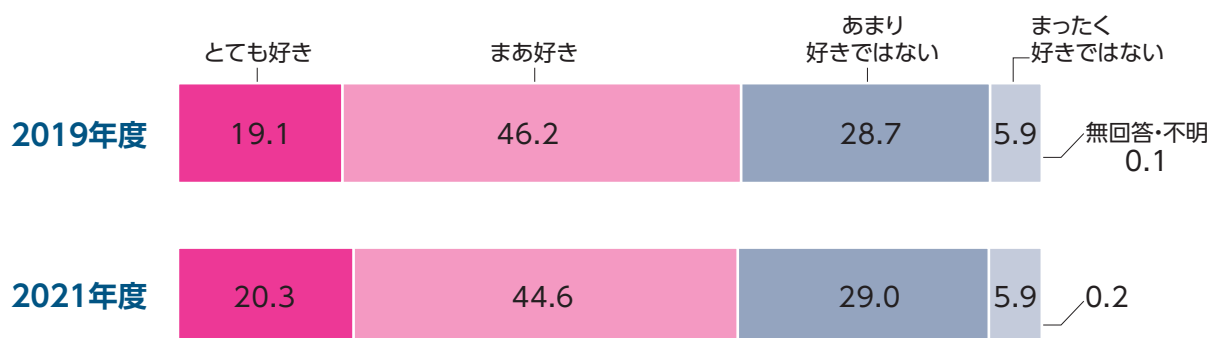
(%)



Q：あなたは英語が好きですか？

図8 英語の好き・嫌い

(%)



\* 2019年度n=4,077、2021年度n=3,770。

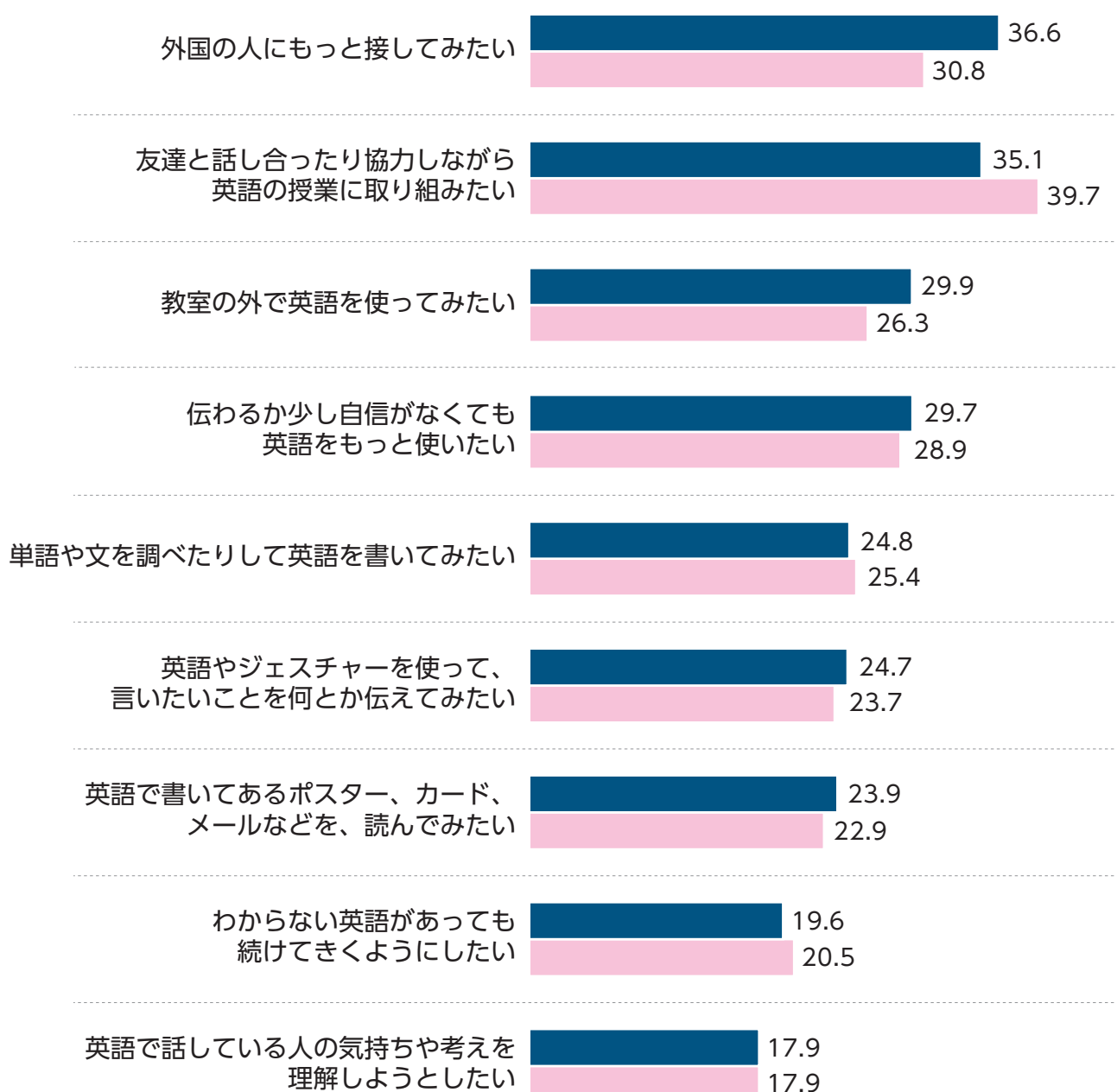
## 2 意識②

### 「友達と話し合ったり協力しながら英語の授業に取り組みたい」が、2019年度→2021年度で4.6ポイント増加。

「友達と話し合ったり協力しながら英語の授業に取り組みたい」は、2019年度→2021年度で4.6ポイントの増加がみられた。「外国の人にもっと接してみたい」「教室の外で英語を使ってみたい」は減少していたが、全体的に大きな変化はみられなかった。

Q：学校での英語の授業や活動で、もっとやってみたいと思うことは何ですか。あてはまる気持ちのものを3つまで選んで教えてください。

図9 英語の授業や活動でもっとやってみたいこと (%)



\* 2019年度n=4,077、2021年度n=3,770。

\* 9項目中3つまで選択。

■ 2019年度

■ 2021年度



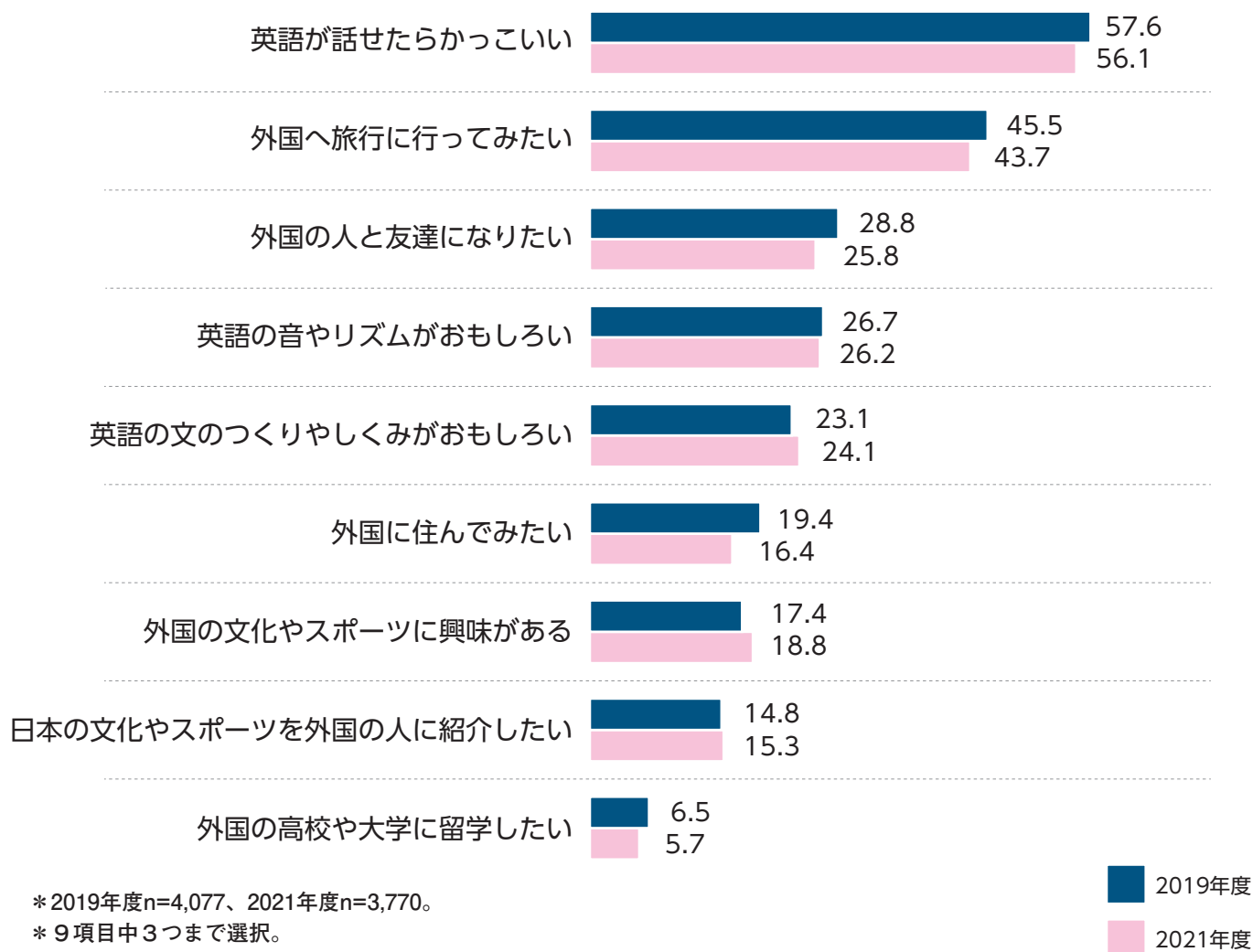
## 2 意識③

### 変わらず半数以上が「英語が話せたらカッコいい」と感じている。

英語の授業を通じて思うようになったことについて大きな変化はみられず、2019年度、2021年度共に半数以上が「英語が話せたらカッコいい」と回答している。将来身につけたい英語力も大きな変化はみられず、もっとも多かったのは「日常会話や海外旅行で困らないくらいの英語力」という回答だった。

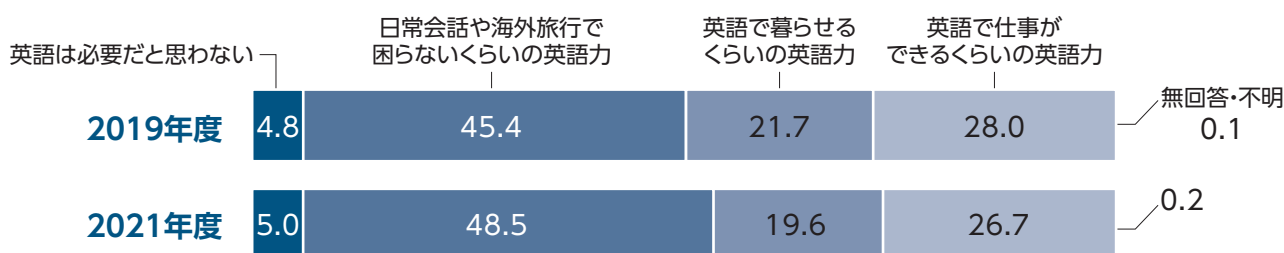
Q：学校での英語の授業や活動をつうじて、どんなことを思うようになりましたか。  
以下の中からあてはまるものを3つまで選んで教えてください。

図10 英語の授業を通じて思うようになったこと (%)



Q：あなたは将来、どれくらいの英語力をつけたいですか。  
もっとも近いものを1つ選んで教えてください。

図11 将来、身につけたい英語力 (%)



\* 2019年度n=4,077、2021年度n=3,770。

## 2) 学校外での英語学習

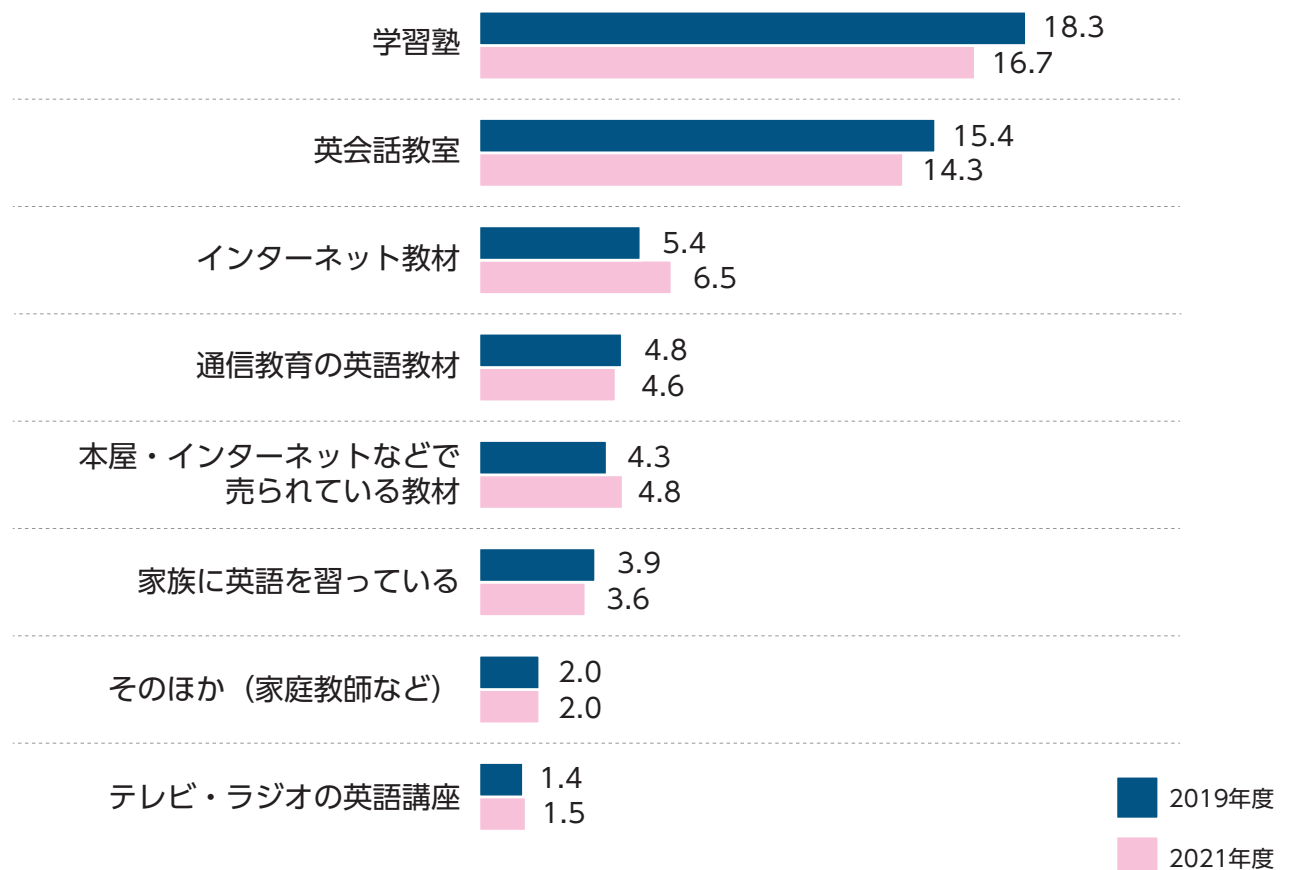
2019年度、2021年度共に約半数が学校外で何らかの英語や英会話の勉強をしている。

約半数が学校外で何らかの英語や英会話の勉強をしているが、一方で「何もしていない」という回答も2019年度、2021年度共に4割強だった。「学習塾」「英会話教室」はそれぞれ1割台など、全体的に大きな変化はなかった。

Q：あなたは学校の授業や活動以外で、英語や英会話の勉強をしていますか。もっとも長い期間取り組んでいるものを1つ選んで教えてください。

図12 学校外での英語学習

(%)



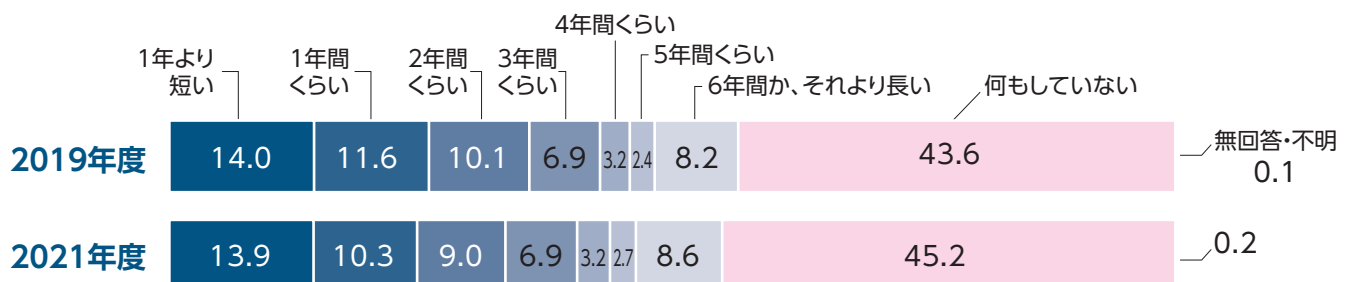
\* 2019年度n=4,077、2021年度n=3,770。

\* 「何もしていない」、「無回答・不明」は図から省略している。

Q：あなたは前の質問で答えたものについて、どれくらいの期間勉強していますか。前の質問で「何もしていない」と答えた人は、ここでも「何もしていない」を選んでください。

図13 学校外での英語学習（期間）

(%)



\* 2019年度n=4,077、2021年度n=3,770。

「小学校英語に関する調査」の結果から得られる、2019年度から2021年度にかけての小学校における英語教育の状況と、今後の英語教育を考えるうえでの示唆について、今回の調査・分析に携わった信州大学の酒井英樹教授が解説します。

## 結果の考察

### 1. 英語力

本調査の主目的は、学習指導要領改訂に伴う、小学校における外国語（英語）教育（以降「小学校英語」）の移行措置期間（2019年度）と全面実施後（2021年度）の数値的变化をみることです。移行措置期間と全面実施後で検定教科書の使用の有無、授業時数の増加、教員の配置などに違いが生じています。そのほか、調査計画段階では予想できませんでしたが、デジタル教科書・教材の活用を始めとするGIGAスクール構想の取り組みや、コロナ禍に伴う影響などが生じています。それらの中でも、今回の分析では、小6生の英語力および意識の変容について、授業時数の増加と教科書の使用が及ぼした影響に焦点をあてています。最大のポイントは、新たな教育課程で学んだ小6生の英語力は、移行措置期間に学んだ小6生よりも高かったということです。具体的には、2019年度の小6生と2021年度の小6生とをスコア型4技能テストを使って比較したところ、教科化された新教育課程で学んだ小6生のほうがトータルスコアもグレードも高いという結果でした。また、技能別にみると、移行措置期間である2019年度も他の技能に比べて高かった聞く力は、2021年度もそのグレードは維持され、4技能の中でもっとも平均スコアが高い結果となりました。また、調査実施前には、教科化によって、小学校英語でこれまで大切にされてきた聞く力や話す力の指導よりも、読む力や書く力の指導に重きが置かれすぎてしまうのではないかという懸念もありましたが、2021年度小6生は、4技能すべての平均スコアが高くなり、話す力、読む力、書く力も、

グレードは聞く力と同レベルとなりました。これにより、総合的な力の育成が図られていることが示されました。これはコロナ禍により言語活動が制限されてきたこともあわせて考えると、評価されるべき結果と考えます。

このように、小6生の英語力が伸長した背景として考えられることは次の2点です。

1つめは、授業時数の増加です。小5・6生の英語の授業時数は、前教育課程では年間35時間、移行措置期間で年間50時間になり、新教育課程では70時間と1単位時間から2単位時間に増加したことで、すべての領域をそれぞれの目標に向けて指導できたことが大きいと推察されます。2つめは、教科書による体系的な指導です。教科化によって英語の検定教科書が作成され、その内容は当然ながら学習指導要領の趣旨を踏まえ各技能が目標に向けて体系的に配置されています。そうした教科書に沿って授業を進めていった結果、おのずと、各技能の連携が取れた授業が行われ、今回の結果に結びついたと考えられます。

### 2. 子どもの意識

次に、子どもの意識に関してです。本調査では、調査対象の児童にアンケート調査も実施しています。経年で比較すると、2019年度の小6生よりも2021年度の小6生のほうが授業の理解度が高く、また、英語嫌いの児童は増加していませんでした。学年が上がったり校種が変わったりすると英語嫌いが増えるという先行研究等の結果から、小学校の外国語の教科化によって英語嫌いが増えるかもしれないと予想していましたが、異なる結果となりました。さらに、英語の好き・嫌いだけで

## 本調査結果から分かること

なく、英語が楽しい・楽しくないなどの他の項目においても、2019年度の調査結果と比較して大きな変化がみられませんでした。

理由として考えられるのは、外国語活動（移行措置期間含む）で使用されていた補助教材『Hi, friends!』『We can!』と、教科化に伴って導入された教科書（検定教科書）との間で扱っている話題（トピック）に大きな違いがないことです。このため、指導方法や実際の指導内容に大きな差異や混乱が生じることなく、児童もそれをスムーズに受け入れられたためと推測されます。

この「大きな変化がみられなかった」ことは、好意的に捉えてよいと考えます。私が行った別の調査研究結果などからも、学年が上がるにつれて、学習内容が難化し、英語が好き・楽しいと思う割合は減少傾向がみられることが多いものです。対して、今回の経年比較結果では、2021年度の小6生は英語の学習歴も2019年度の小6生より長期間であったにもかかわらず、英語を好き・楽しいと思う割合が減少せず維持されていたことは肯定的に捉えてよいでしょう。また、そもそも英語が嫌い・楽しくないと思う割合が少ないことも安心材料の1つと言えます。

ただし、全体としては少数ではありますが、英語が嫌い・楽しくないと思う子どもや、好きだが理解できていない、嫌いだが理解できている層も一定数存在します。この子どもたちへの支援の手立てを講じるためにも、今後の精査の必要性を感じます。

### 英語の有用感と小中連携

もう1点、非常に興味深い結果が「学校での英語の授業や活動を通じて思うようになったこと」です。「英語は不要」と考える子どもの比率はわずか5%に過ぎず、子どもたちは英語力を身につけたい、将来仕事で英語を使ってみたいなどさまざまな意欲を持ちながら英語を学んでいます。学校現場で指導に当たる先生方には、将来を生きるために必要な

能力を身につけさせているのだという長期的な視点を持ちながら日々の英語指導にあたっていただきたいと思います。

今後の小中連携のあり方が日本における英語教育や日本人の英語力に大きな影響を及ぼします。小・中学校の英語教育が、今回の学習指導要領改訂に伴い、制度上・指導要領上・教育課程上、つながりました。小・中学校の先生方が同じ視点で子どもたちを見取り、語る土壌ができたのです。この機会を生かして、相互の指導ノウハウを共有してください。ポイントは、相互の学習・指導領域に踏み込み過ぎないことです。現場の様子を拝見していると、本来中学校で指導すべきことを小学校で指導してしまっているケースもみられます。小学校では英語を使ったコミュニケーションの魅力をたっぷり味わわせ、教科指導の内容はむしろ「後ろ倒し」にするくらいの心持ちがよいでしょう。

## 今回の結果から得られる示唆

### これからの小学校英語に対する提言

AIの発展等により、これからの社会はますます予測不可能となり、すべてが大きく変化していきます。そうした時代にあって、子どもの力やその伸びを日々の指導の中で捉えることと共に、客観的に捉えることも非常に大切です。マクロとミクロの両方の視点で捉え、指導の質の更なる向上につなげていただくことが重要です。今回、本調査に協力くださった全国の自治体・学校にこの場を借りて感謝いたします。今後は、我々も調査結果の詳細分析を進めます。日本の英語教育がますます活性化していくことを願います。

## 資料編1-1 学校調査の結果

資料編1-1では、調査協力校の「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」の取り組み状況を捉えるために実施した学校調査の結果を紹介する。

\*調査実施時期：2019年度、2020年度、2021年度 \*回答者：第6学年学年主任 \*2020年度は、学校調査と教育委員会調査のみ実施。

\*本資料編では、2回の英語力調査（2019年度・2021年度）に参加した61校のうち、2019年度・2021年度の学校調査に回答した45校の回答を紹介する。

### 【指導者】

①第6学年の「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」の授業に関わっている人

②中心となって指導している人

③「外国語指導助手（外国人・日本人）」の授業への参加頻度（1クラスあたり）

(件)

		2019年度	2020年度	2021年度
①「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」の授業に関わっている人 Q.6年生の「外国語（英語）」*の授業に関わっている人はどなたですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 *2019年度は「外国語（英語）活動」 *複数回答	1.学級担任	38	32	28
	2.専科教員	11	16	13
	3.教科担任（他学級担任など）	2	2	8
	4.外国語指導助手（外国人）	44	37	36
	5.外国語指導助手（日本人）	6	6	7
	6.中高の英語教員	2	4	4
	7.その他	0	0	0
	無回答・不明	1	3	0
②中心となって指導している人 Q.実際の授業で中心となって指導を行っているのはどなたですか。あてはまる番号を1～7の中から1つだけ選んでご記入ください。	1.学級担任	27	19	21
	2.専科教員	10	16	11
	3.教科担任（他学級担任など）	1	2	7
	4.外国語指導助手（外国人）	5	3	2
	5.外国語指導助手（日本人）	0	0	0
	6.中高の英語教員	1	1	3
	7.その他	0	0	0
	無回答・不明	1	4	1
③「外国語指導助手（外国人・日本人）」の授業参加頻度 Q.1クラスにつきどれくらいの頻度で「外国語指導助手」は6年生の授業に参加していますか。	1.週2回程度	16	24	24
	2.週1回程度	14	8	8
	3.月2、3回程度	4	4	1
	4.月1回程度	4	3	2
	5.2、3か月に1回程度	1	0	4
	6.半年に1回程度	1	0	0
	7.年に1回程度	0	0	0
	8.その他	0	1	1
	無回答・不明	5	5	5

\*2019年度・2021年度両方の学校調査に回答した45校の回答。

# 資料編 1-1 学校調査の結果

## 【教材】

- ①使用教材
- ②タブレットやパソコンなどの端末の使用度（児童）
- ③タブレットやパソコンなどの端末の使用方法（児童）

(件)

		2019年度	2020年度	2021年度
<b>①使用教材</b> Q.次のような教材は使っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 *複数回答。	1.デジタル教科書		39	45
	2.学級担任や専科教員が作成した教材		26	31
	3.ALTなどの外部人材が作成した教材		17	25
	4.市販のワークブックやプリント、ワークシート		11	8
	5.英語の絵本		6	6
	6.英語音声のCDやDVD		15	14
	無回答・不明		3	0
<b>②タブレットやパソコンなどの端末の使用度（児童）</b> Q.6年生「外国語（英語）」の授業で、子どもはタブレットやパソコンなどの端末をどれくらい使いますか。	1.よく使う			9
	2.ときどき使う			19
	3.あまり使わない			13
	4.まったく使わない			3
	無回答・不明			1
<b>③タブレットやパソコンなどの端末の使用方法（児童）</b> Q.6年生「外国語（英語）」の授業で、子どもはタブレットやパソコンなどの端末をどのように使いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 *②でタブレットやパソコンなどの端末の使用度を「よく使う」「ときどき使う」と回答した方のみ。 *複数回答。	1.自学習用のアプリに取り組む			6
	2.英語の音声を聞いたり、英語の動画を見たりする			10
	3.英語で話したものを録音したり録画したりする			12
	4.録音した音声や録画した動画を先生や友だちに共有する			8
	5.振り返りを記入して先生や友だちと共有する			2
	6.評価用のアプリに取り組む			0
	7.英単語の意味や発音を調べる			12
	8.翻訳機能を使って伝えたい英語表現などを調べる			8
	9.その他			17
	無回答・不明			0
<b>③-②「9.その他」の具体的な記述</b> *具体的な記述があった16件の回答。原文のまま掲載している。	自分の発表をスライドに表現する。/教材として。/パワーポイントで資料の作成やそれを使った発表/プレゼンを作る（スピーチの写真、wordをはりつける）/発表用のプレゼンづくり/発表用のプレゼンを作って発表する。/外国の文化などを調べる/グループ発表をするときの調べ学習（生物の生態について）。/英語で文章を書くときに表現を調べる/その国の文化/成果物作成/音声入力/スピーチの時の発表資料/発表ややり取りに使うものを作成する。/発表用プレゼンに使用/海外とのやりとり/パワーポイントでの発表など。			

\*①使用教材は2020年度調査、2021年度調査のみ、②タブレットやパソコンなどの端末の使用度（児童）、③タブレットやパソコンなどの端末の使用方法（児童）は2021年度調査のみでたずねた項目。

\*2019年度・2021年度両方の学校調査に回答した45校の回答。

## 資料編1-1 学校調査の結果

### 【評価・CAN-DO】

- ①評価の有無<外国語（英語）活動>
- ②評価方法<外国語（英語）>
- ③評価の材料
- ④CAN-DO形式の学年ごとの学習到達目標の有無
- ⑤CAN-DO形式の学習到達目標の評価への活用

(件)

		2019年度	2020年度	2021年度
<b>①評価の有無</b> <外国語（英語）活動> Q.現在、6年生には下記のような評価を行っていますか（通知表および指導要録も含む）。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 *複数回答	1.文章の記述による評価	44		
	2.観点別学習状況の評価（ABC、◎○△など）	1		
	3.数値による評定	0		
	4.評価していない	1		
	無回答・不明	0		
<b>②評価方法</b> <外国語（英語）> Q.今年度の6年生「外国語（英語）」の評価についてお聞きします。どのような評価を行っていますか。	1.観点別の評価		14	14
	2.観点別の評価と評定		27	28
	3.観点別の評価と文章の記述による評価		3	0
	4.観点別の評価・評定と文章の記述による評価		0	1
	5.文章の記述による評価のみ		0	0
	6.通知表を出さない		0	0
	7.その他		0	0
	無回答・不明		1	2
<b>③評価の材料</b> Q.評価の材料には何を使っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 *複数回答。	1.授業中の様子	43	40	44
	2.児童による自己評価	32	28	27
	3.課題の提出（ポートフォリオなど）	19	27	27
	4.校内で独自に作成したペーパーテスト	0	9	10
	5.市販のペーパーテスト	0	19	25
	6.外部機関による資格試験	0	0	0
	7.パフォーマンステスト	9	31	37
	8.その他	0	6	2
	無回答・不明	0	3	1
<b>④CAN-DO形式の学年ごとの学習到達目標の有無</b> Q.「外国語（英語）活動」についてCAN-DO形式の学年ごとの学習到達目標を作成していますか。	1.はい	2	16	21
	2.いいえ	40	25	21
	無回答・不明	3	4	3
<b>⑤CAN-DO形式の学習到達目標の評価への活用</b> Q.そのCAN-DO形式の学習到達目標は、評価に活用していますか。 *④で「1.はい」と回答した方のみ。	1.はい	1	13	16
	2.いいえ	1	0	2
	3.わからない	0	2	3
	無回答・不明	0	1	0

\*2019年度・2021年度両方の学校調査に回答した45校の回答。

# 資料編 1-1 学校調査の結果

## 【校内研修】

### ①校内研修の頻度

### ②校内研修の内容

(件)

		2019年度	2020年度	2021年度
①校内研修の頻度 Q.「外国語活動」「外国語」に関する校内研修はどれくらい行われていますか。	1.月1回以上	1	1	2
	2.月1回程度	6	3	3
	3.2,3か月に1回程度	11	7	8
	4.半年に1回程度	5	5	5
	5.年に1回程度	15	13	14
	6.実施していない	7	12	12
	無回答・不明	0	4	1
②校内研修の内容 Q.どのような内容の研修が行われていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 *①で「1.」～「5.」と回答した方のみ。 *複数回答。	1.外国語・外国語活動の理念や目標	16	5	6
	2.研究授業や授業研修会	18	11	14
	3.教科書や教材の活用方法 (デジタル教科書の使い方も含む)	17	10	6
	4.年間指導計画の共有や読み込み	5	3	3
	5.評価方法について	9	10	11
	6.パフォーマンステストの方法	3	2	5
	7.英語力向上 (クラスルームイングリッシュ など)	20	10	11
	8.指導法 (歌、チャンツ、ゲームの進め方 など)	23	14	14
	9.その他	0	0	2
	無回答・不明	0	1	0

\*2019年度・2021年度両方の学校調査に回答した45校の回答。

## 【授業で行っていること】〈2021年度〉

(件)

		よく行う	ときどき行う	あまり行わない	まったく行わない	わからない
6年生の「外国語(英語)」の授業で行っていること Q.6年生「外国語(英語)」の授業で、次のようなことはどれくらい行いますか。	1.教科書の英語音声を聞く	38	7	0	0	0
	2.先生や友だちが英語で話すのを聞く	41	4	0	0	0
	3.単語や短い文を英語で言う練習をする	44	1	0	0	0
	4.英語で書いた原稿をもとに発表する	14	24	7	0	0
	5.先生や友だちと英語でやりとりする	35	10	0	0	0
	6.音と文字の関係 (フォニックスなど) を学ぶ	13	21	10	1	0
	7.アルファベットの読み書きをする	11	31	3	0	0
	8.英単語や英文を読む	17	22	6	0	0
	9.英文の書き方のルール (ピリオド、文頭大文字、単語の間をあけるなど)を理解する	7	27	9	2	0
	10.英単語や英文を書き写す	11	30	3	1	0
	11.語順や文構造を理解する	2	14	24	5	0
	12.単語のつづりを覚える	2	14	23	6	0

\*2019年度・2021年度両方の学校調査に回答した45校の回答。

\*2021年度のみたずねた項目。



## 資料編 1-1 学校調査の結果

### 【学校の課題】

「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」に関する各校の課題について聞いた。下記は2021年度の学校調査において本項目に回答があった28校の回答である。

Q：「外国語（英語）活動」や「外国語（英語）」に関して、貴校の課題と思われることについて、教えてください。（自由記述回答）

2021年度
コロナの影響もあり、年間70時間の授業時数を確保することが大変でした。
書く活動（児童が伝えたいこと）の指導に難しさを感じる。学力差が大きく、授業づくりに課題がある。
・英会話教室に通っている児童とそうでない児童の能力差が大きい。 ・本年度は新型コロナウイルス対策によりペアやグループでの活動、学習に対する制限が多くあり、児童が話す機会が少なくなった。
現在は3～6年の授業を専科がしていますが担任になった時に学級差が出る可能性が大きい。共通理解を図ろうと資料を配付したり、授業を参観していただける時間を確保したりしていますが、なかなか興味をもってもらえません。
書く活動の充実
さらなる指導力の向上を目指したいと考えています。（自分の課題としては、担任がT1であることを心がけたいと思っています。）
子供への指導を教科書通り行えば、力がつくということではないと感じる。より、他教科のように、必要感や目的意識や問題意識をもたせる工夫が必要。
担任毎の個々の差が出やすい。・興味の持ていきかた。・狙った学習への進み方など。
・授業の打ち合わせをする時間が、専科教員とALTと中々取れないこと。・担任が主体で授業を行うことがあまり進んでいないこと。
外国語の学習を行う中で、資料の畜積、年間の指導内容など、誰がやってもできるような仕組みを整えたい。専科の先生に頼っている部分が多くある。
児童の英語力の個人差がある。プレゼンテーション力向上
専科教員が配置されているため、担任が外国語を指導する機会がほとんどなく、経験を積み上げることが難しい。
コロナ対策での（発表、インタビューテスト）では少人数での実施。
（児）外国語のリスニング（速いものや長いもの）が苦手。読むが苦手。（先）研修等を通して、統一した指導を行っているが、子どもたちの習得や活用に時間を要する。
・パフォーマンステストの回数を増やしたい。・GTECのような総合的な評価を定期で行っていけば、確実に力がつくと思う。
教員間で英語力（授業力）に差があり、子どもたちに十分に英語の指導ができていない。
評価が難しい。ALTと楽しくコミュニケーションができればいいのか？単語のぬけや文法のまちがいは、減点になるのか？基準が難しい。
指導研究、評価研究が今後すすむとよい。
ALTについて本校（市）は、毎時間ALTとのTT体制で授業を行なっていますが、日本の学校（学校教育）について理解がある方ばかりとは言えず、授業の進め方、指導法や内容（例えば発音やつづり方など、その方の母国のものを「正しい」と強調するなど）について、連携が大変難しいことがあります。よい方ばかりではなく、その年その年によって、当たり外れ的な場合があります。正直、専科としては居なくてもよいのではないかと思うこともあります。
・外国語の指導力に教員間の差がある。・授業（外国語）。・授業（外国語）以外での英語指導。※週2時間の授業では英語力はつきにくいと考えています。学校生活の中で、クラスルームイングリッシュを活用し、いかに楽しく自然に英語にふれる機会をたくさんつくっていくかが大切だと思っています。
外国語活動ではALTが授業の流れを考えている。（本来は授業者・担任などが考えるべき…）
外国語の専科を配置してほしい。外国語の免許をもっていない担任が教えている現状が不思議である。
既習を生かして、英語で会話をしようとする児童が少ない。
聞く活動として、テストの時の様にスラスラと流れる文章に対して上手に聞きとれない児童がいる。差が大きい
ALTの時間が少なすぎることから、どのように指導すればよいか迷うことがある。
外国語をたくさん聞く時間を確保すること。
書くが苦手。評価の仕方（テストの採用）

\*原文のまま掲載している。

## 資料編1-2 教育委員会調査の結果

### 【教育委員会の課題】

教育委員会の「外国語（英語）活動」「外国語（英語）」担当の指導主事に、それぞれの教育委員会での「外国語（英語）活動」や「外国語（英語）」に関する課題について聞いた。下記は、3回の調査に連続して回答した7つの教育委員会の回答である。

Q：「外国語（英語）活動」や「外国語（英語）」に関して、貴教育委員会の課題と思われることについて教えてください。（自由記述回答）

	2019年度	2020年度	2021年度
1	学校間・教師間における指導力の差	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間差、教師間差（指導力・英語力）の解消。</li> <li>・教科化されてからも、外国語科が軽視される傾向があることへの対応</li> <li>・指導や評価に不安を抱える教員への対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語科における目標についての理解不足。（読む力、書く力をどこまで付けばよいのか等）。</li> <li>・CAN-DOリストの活用、指導と評価の一体化。</li> <li>・言語活動を通じた指導への理解不足。</li> </ul>
2	全教員が同じように授業力がのびていない。	担当教員の英語を用いた体験的な言語活動の指導力向上・ALTとの連携を充実させた授業づくり	教員の外国語、外国語活動の指導力の向上。
3	ALT依存型の授業からの授業改善（言語活動を通じた学び方、ICTの活用評価についての規準の作成（各校での共通理解））	評価方法・評価規準の設定授業（単元）を作る授業の実施。英語力。	教員の指導力の向上のための研修と働き方改革のバランス
4	学級担任の指導力向上、評価に対する不安の解消。	5・6年教科化により「書く」活動もこれまで以上に求められるが、中学の前倒しではなく、音声面での慣れしたしみのうえに文字と結びつける指導がされなければならないのだが、英文を書かせたりする指導になりがち。方向を正す必要がある。	学級担任の指導力向上。教科担任制とのバランス。文字指導のやり方とタイミング。小中連携
5	指導力向上	授業改善と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の英語指導力。</li> <li>・教職員の負担感</li> </ul>
6	小学校教員の指導力の格差	田舎の教育委員会では、指導主事が各教科いるのではなく、少人数で対応しています。たまたま中高の英語の免許を持っている私がありますが、他業務にかなり時間がかかり、思うような学校への授業改善に向けた指導ができておりません。「市の外国語教育のためだけ」の業務であれば、色々できるのだと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の外国語学習への熱量が都市部よりはるかに低い。今後、学力差が増々大きくなるのではないか。</li> <li>・小学校の指導者の質の向上。</li> </ul>
7	来年度から全面实施となる「外国語科」での評価をどう行っていくか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領における評価の仕方で悩んでいる先生方が多いので共通理解を図る必要がある。</li> <li>・教科書どおりに進めると、活動が多すぎて終わらないという先生方の意見が多いので、どのように進めていったらよいか指導者の先生方の意見交流会の場などの設定ができればよいと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書どおりに授業を進めると活動が多すぎて終わらないという先生方の意見がある。どのように軽重をつけて進めていくのがよいのか指導者の先生方の意見交流会の場を設定できたらよいと感じる。</li> <li>・専科教員の配置によって「専科教員にお任せ」という意識や校内での連携の希薄化、専科教員の指導の在り方に課題が見られる。</li> </ul>

\*原文のまま掲載している。

## 資料編2 GTEC Juniorのスコア・グレードについて

本調査ではGTEC Junior2を実施した。GTEC Junior2のトータルスコア（480点満点）は、リスニング（120点）、リーディング（120点）、スピーキング（120点）、ライティング（120点）の4技能の合計得点である。また、トータルスコアの点数によって、トータルグレードとして4段階に分けられている。また、4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）についても、それぞれのスコアによって、4段階のグレードに分けられている。

### [CAN-DO statements]

グレード	推奨スコア ガイドライン	聞く		読む	
		スコア	CAN-DO	スコア	CAN-DO
5	Junior Advanced Level 英語に広がりをもって 使えるようになるレベル	121~140	ゆっくりはっきり、かん単な英語で話されれば、インターネットの番組やテレビのインタビューなどを聞いて、その内容がだいたいわかる。	121~140	インターネットや本などに書かれた、絵や写真を説明するかん単な文章を読んで、その内容がわかる。
			ゆっくりはっきり話してもらえれば、初めて聞く物語のだいたいの内容がわかる。		学校新聞のなかで、外国人の先生が書いた文章を読んで、先生の出身地や夏休みのできごとがわかる。
			外国人の先生が話す、休日の過ごし方などを聞いてほしい内容がわかる。		
4	Junior Intermediate Level なじみのある英語を 使えるようになるレベル	90~120	買い物や食べ物を注文するときに、何がほしいか、いくつほしいかなどを店員に英語で聞かれ、そのしつ間がわかる。	90~120	友だちからの英語で書かれたメッセージ（メモや携帯メッセージ）などを読んで、待ち合わせの時間や場所などがわかる。
			友だちがなりたいたしよく業とその理由“I want to be a pilot.”（わたしはパイロットになりたいです。）“I like airplanes.”（わたしは飛行機が好きです。）についての話がわかる。		英語で書かれた友だちの自己紹介などについての文を読んで、友だちの趣味や得意なことが理解できる。
3	Junior Primary Level 決まった表現を自分なりに 使い始めるレベル	70~89	待ち合わせの時間と場所“Let's meet at the park at 10 am.”（10時に公園で会いましょう。）などを聞いて、その時間と場所がわかる。	70~89	街の中で station（駅）や、shop（店）などの看板を見て、何の建物かがわかる。
			友だちの1日の生活、“I get up at 7.”（7時におきます。）、“I go to school at 8.”（8時に学校に行きます。）などを聞いて、何時に何をするかかわかる。		レストランやお店で、絵や写真がついたメニューを見て、Pizza（ピザ）や orange juice（オレンジジュース）などを注文したいものを選ぶことができる。
			外国人の先生の自己紹介などの話を聞いて、名前、出身地、食べ物の好き嫌いなどがだいたいわかる。		
2	Junior Introductory Level 知っている表現を理解して 行動できるレベル	55~69	教室で使われるかん単な指示、“Stand up.”（立ちなさい。）、“Sit down.”（すわりなさい。）、“Stop.”（止まりなさい。）などを聞いて、指示どおりに動くことができる。	50~69	dog（イヌ）、cat（ネコ）などの動物や、apple（リンゴ）、orange（オレンジ）などの食べ物などをさす英語を読んで、絵や写真を選ぶことができる。
			友だちの誕生日や行事の日づけを英語で聞いて、それをカレンダーでさすことができる。		
1	Junior Preparatory Level 英語の基本的な 決まり文句をいくつか 理解できるレベル	~54	かん単な英語のあいさつや“Good morning.”（おはよう。）、“How are you?”（元気ですか。）などを聞いて、その意味がわかる。	~49	アルファベットの太文字、小文字を見て、26文字を声に出して読むことができる。
					アルファベットを聞いて、小文字が書かれたカードのなかから、アルファベットを選ぶことができる。
					アルファベットを聞いて、太文字が書かれたカードのなかから、アルファベットを選ぶことができる。

グレード	推奨スコア ガイドライン	話す(発表)		話す(やりとり)	書く	
		スコア	CAN-DO	CAN-DO	スコア	CAN-DO
5	Junior Advanced Level 英語に広がりをもって使えるようになるレベル	121~140	3~5文程度で、写真や絵を見せながら、家族や友だちについて簡単な説明ができる。	自分の興味があることやほしいものなど、身近なことについて聞かれたとき、理由などを付け加えながら話を続けることができる。	121~140	自分が住んでいる町など身近なことについて紹介する文章を英語3~4文程度で書くことができる。
						自分の友だちを紹介する文章や学校を紹介する文章を英語2文以上で書くことができる。
4	Junior Intermediate Level なじみのある英語を 使えるようになる レベル	90~120	"I want to go to Italy. I like pizza." (私はイタリアに行きたいです。私はピザが好きです。)など、自分の行きたい国やなりたい職業などについて、理由を付け加えて伝えることができる。	好きな食べ物やスポーツなどについて、相手にしつ問をしたり、自分のことを伝えたり、簡単なやりとりを続けることができる。	95~120	自己紹介文を書くときに、趣味や得意なことについて具体的に、英語2文程度で書くことができる。
						"go to the park" (公園に行く)、 "play the piano" (ピアノをひく)など、自分のやることをメモに書くことができる。
3	Junior Primary Level 決まった表現を 自分なりに 使い始めるレベル	70~89	前もって話すことを用意していれば、"I get up at 7." (7時におきます。)、"I go to school at 8." (8時に学校に行きます。)など、自分の1日の生活について伝えることができる。	"What animals do you like?" (あなたが好きな動物はなんですか。)など、簡単なしつ問をすることができる。	75~94	pencil (えんぴつ)、shoes (くつ)など、買う物のメモを英語で書くことができる。
			"Go straight." (まっすぐ行きなさい。)、"Turn right." (右に曲がりなさい。)などの表現を使って、簡単な道案内ができる。	好きな食べ物や色などについて聞かれたときに、"I like blue." (青が好きです。)などと答えることができる。		名前や日づけ、曜日などを英語でプリントに書きこむことができる。
						dog (イヌ)、cat (ネコ)などの動物や、apple (リンゴ)、orange (オレンジ)などの食べ物の絵を見て英語を書くことができる。
2	Junior Introductory Level 知っている表現を 理解して行動できる レベル	50~69	"My name is Yuko." (私の名前はゆうこです。)、"I like pizza." (私はピザが好きです。)など、自分の名前や好きな物などを伝えることができる。	自分の名前や気持ちなどを聞かれたときに、"My name is Yuko." (私の名前はゆうこです。) "I am happy." (うれしいです。)などと答えることができる。	50~74	アルファベットを聞いて、そのアルファベットの大文字、小文字を書くことができる。
				"What's this?" (これは何ですか。)と聞いたり、指をさしながら"I want milk." (牛にゅうが欲しいです。)など自分がほしいものを伝えたりすることができる。		
1	Junior Preparatory Level 英語の基本的な 決まり文句を いくつか理解できる レベル	~49	dog (イヌ)、cat (ネコ)などの動物や、apple (リンゴ)、orange (オレンジ)などの食べ物の英語をいくつか言うことができる。	"Good morning." (おはよう。)、 "How are you?" (元気ですか。)などのかん単な英語のあいさつができる。	~49	dog (イヌ)、cat (ネコ)などの動物や、apple (リンゴ)、orange (オレンジ)などの食べ物の英語を見ながら、それをノートに書き写すことができる。
				自分が好きな食べ物や動物などについて、英語で聞かれて、好き嫌いを Yes. (はい) / No. (いいえ) で答えることができる。		お手本のアルファベットの文字 (大文字、小文字) を見ながら、それをノートに書き写すことができる。

# 小学校英語に関する調査

## 小学校学習指導要領全面実施前後での 児童の英語力及び意識の変容

### 【調査監修】

酒井 英樹（信州大学学術研究院教育学系 教授）

### 【調査企画・分析メンバー】

加藤 由美子（ベネッセ教育総合研究所主席研究員）

森下 みゆき（ベネッセ教育総合研究所主任研究員）

福本 優美子（ベネッセ教育総合研究所研究員）

\*所属・肩書は、2023年3月時点のものです。

本報告書はベネッセ教育総合研究所の  
ホームページからダウンロードできます。

ベネッセ教育総合研究所

検索

<https://berd.benesse.jp/>

ベネッセ教育総合研究所が実施している各種調査の結果も、  
こちらからご覧いただけます。

### 「小学校英語に関する調査」

2023年3月31日発行

発行人：野澤雄樹

編集人：加藤健太郎

発行所：（株）ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所

デザイン・編集協力：株式会社 縁 執筆協力：神田有希子